

# 中澤省一郎のSS経営メールマガジン No.65

(配信は不定期です。できる限り月1回以上は配信します)

## 第一部 どうして4RIM連動は終わったか NO1：相場操縦疑惑とEM日本撤退

皆さん、ご存じのように平成23年暮れより、Platts、石油メジャーを中心とした、原油の相場操縦疑惑が沸き起こり、現時点でも明確な結論は出ておらず、かつ、日本のRIM社に関する疑惑も新聞記事等に出ていました。

通常、「疑惑が発生」＝「相場操縦はなくなる」のです。

平成23年12月より、WTI逆格差が大幅に縮小したことから判ります。

この相場操縦疑惑の発生時期とEM本体の日本撤退時期が、偶然の一致なのかはわかりませんが、ほぼ同時期に発生しております。

日本の業転相場はこの時期まで

- (1) EM本体からの翌週の価格変動に関する「極めて正確な情報」が提供され
- (2) その価格に日本の他者を含めた業転市場もほぼ、連動していました ⇒ 4RIMに反映

言い換えると 「EM本体の翌週の極めて正確な予測」 ⇒ 「4RIMの形成」 でした。

現時点の「4RIM」⇒「4RIM」⇒「4RIM」という循環（負のスパイラス）とは、明らかに違った4RIMの形成要因でした。

以下に、時系列的にまとめてみましたので、ご覧ください。

これ以上は書きにくいのですが、4月2日のセミナーでは詳しく解説しています。（数名であれば、CD-ROMの販売ができます）

	H24.6まで	H25.5（又は9）まで	H25.10以降
●EM本体の関与	主体的に関与	消極的に関与	ほとんど関与せず
●翌週の価格情報	非常に正確な情報提供	正確性は下落・ある程度の情報提供	ほとんど情報提供なし
●業転価格の決定	EM本体からの情報に連動	EMGの変動幅への連動性が薄れる	EMGの変動幅に連動せず
●業転チャンピオン	EM	EMGとJXのせめぎあい	完全にJXの勝利
●業転商社の仕入価格決定	週単位の事前確定のEM主導	4RIM月次平均の後確定が優勢	4RIM月次平均の後確定
●業転商社の安値販売	業転商社の収益の圧迫		月中以降の安値販売＝月次4RIM平均の引下＝収益拡大の可能性大

## 第2部 どうして4RIM連動は終わったか NO2：業転も4RIM月次平均の悪夢

もう一度書きます。業転の価格決定は「業転も4RIM月次平均の悪夢」です。

H24.5以前： EM本体からの「極めて正確な翌週の価格提供」⇒「4RIM」の変動

H25.10以降： 「4RIM」⇒「4RIM」⇒「4RIM」；「負のスパイラル」

以下の仮定で検証します。

- 業転商社（特約店）のスポット業転も、4RIM月次平均△2円で調整される
- 原油価格と為替は1か月変動しない。原油：70円、精製マージンを10円、EX 80円とする
- 月前半 業転商社は、スポット業転をマージン2円で販売します。4RIM = 82円です
- 月後半 業転商社は、スポット業転を80円で販売。4RIM = 80
- 結果として、4RIM月次平均81円、業転商社の仕入れは、79円
- 平均マージン前半3円、後半1円で、平均2円 ⇒ 安売りしてもマージン維持＋販売数量拡大で、利益増大
- 元売マージンは10円 ⇒ 9円で、1円悪化 ⇒ 元売りの収益悪化（系列分も含めてすべてに収益悪化が波及）

実態としては

スポット業転の4RIM月次平均 = 業転商社の販売マージン保証 ⇒ 業転商社の収益拡大＋「元売りの収益悪化」

長く続けるほど、「元売りの収益悪化」⇒半年で終了⇒手法が「4RIM排除」

最も有効な手法は

「スポット業転の4RIM月次平均調整の排除」なのですが・・・・・・・・

「スポット業転だけ」4RIM月次平均調整の排除をすることができない何らかの理由があるのではないかと推察しています。